

第1章

神奈川の地域のすがた

- 1 地域政策圏の設定
- 2 地域区分設定の考え方
- 3 各地区の現状

1 地域政策圏の設定

- 神奈川は、丹沢から足柄の山々、湖、相模川や酒匂川とその周りに広がる相模平野や足柄平野、三浦から多摩、武蔵野へと続く丘陵・台地、東京湾と相模湾を分ける三浦半島など、豊かな自然に恵まれています。一方で、首都圏に位置し、交通網をはじめとする利便性の高い都市的インフラが整備され、日本有数の産業の集積や、高い技術力も持っています。これら神奈川の魅力は、地域にくらす人々の生活を多彩なものにしています。
- 「神奈川力構想・プロジェクト51」では、県土づくりの基本的方向を次のとおり示しておりますが、「神奈川力構想・地域計画」においても同様の考えに基づき、地域政策圏を設定しています。

(1) 県土形成の基本的方向

神奈川は、首都圏にありながら豊かな自然に恵まれ、人々のにぎわいや産業の集積が進んでいる大変多彩な風土を持っています。

その中で、これまで神奈川は、業務機能やものづくりなどの面で首都機能の一翼を担うとともに、過度な開発を抑制することによって、良好な都市環境の保全に努めてきました。

今後の県土づくりでは、引き続き東西バランスに配慮し、県土の均衡ある発展をめざしつつ、地域の資源や個性を生かし、多様で豊かな県民生活を支え、次の世代に良好な県土を引き継ぐ観点から県土政策を進めていきます。

このことを通して、新たな活力と魅力にあふれ、また、安全で環境に配慮した県土形成に努めます。

- 人々の生活と自然の重視
- 南北の結びつきの重視
- 隣接する都県との交流圏域の重視
- 首都圏における連携
- 都市再生などの取組みへの対応

(2) 地域政策圏形成の基本的方向

県土形成にあたっては、水、みどり、空間などの自然の連続性や将来の交通基盤の整備状況、人々の活動の広がりなどをベースに、地域の特性を生かした地域づくりを進めます。そのため、県内に「国際文化交流都市圏」「環境共生生活都市圏」「緑住快適交流都市圏」の3つの地域政策圏を設定しています。今後もそれぞれの地域政策圏の形成の基本的方向に沿って、様々な取組みを進めるとともに、地域主体のまちづくりに配慮した土地利用を進めます。

- ① **国際文化交流都市圏**（多摩川、鶴見川流域、多摩・三浦丘陵を一体としてとらえた、川崎・横浜、三浦半島を含む県東部の地域）

→p.20※

- ② **環境共生生活都市圏**（丹沢から相模川や境川、引地川、金目川の流域を一体としてとらえた、津久井から県央、湘南を含む県中央部の地域）

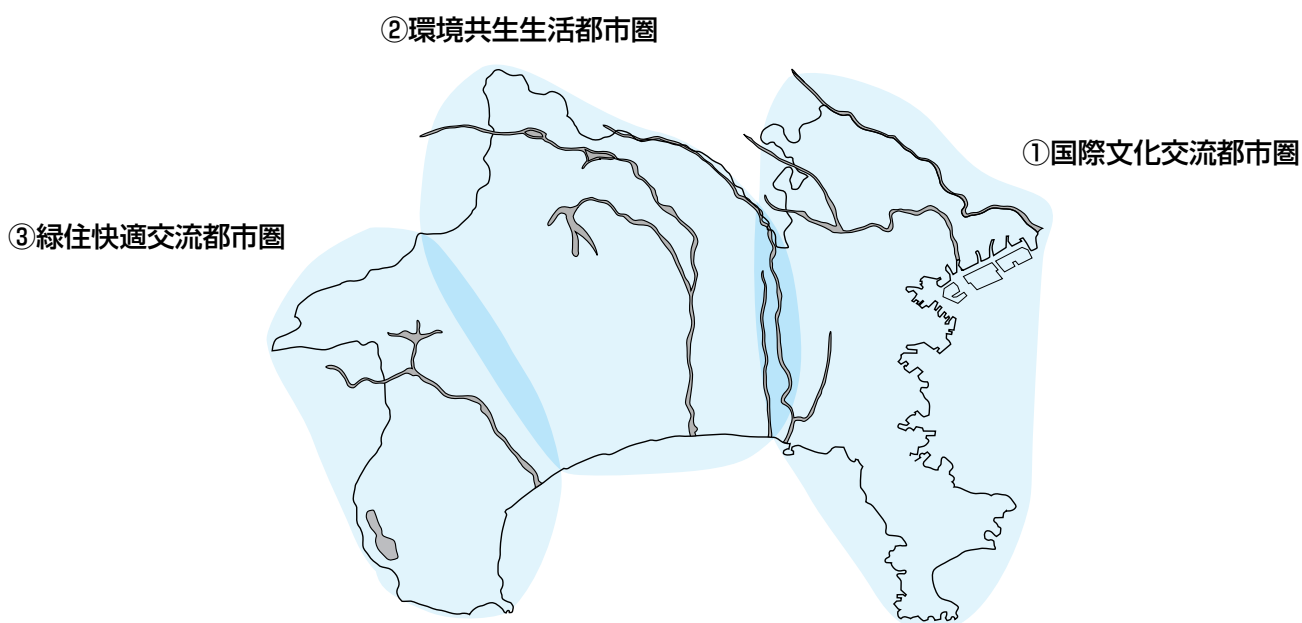
→p.58※

- ③ **緑住快適交流都市圏**（丹沢、酒匂川流域を一体としてとらえた、足柄上から西湘に至る県西部の地域）

→p.96※

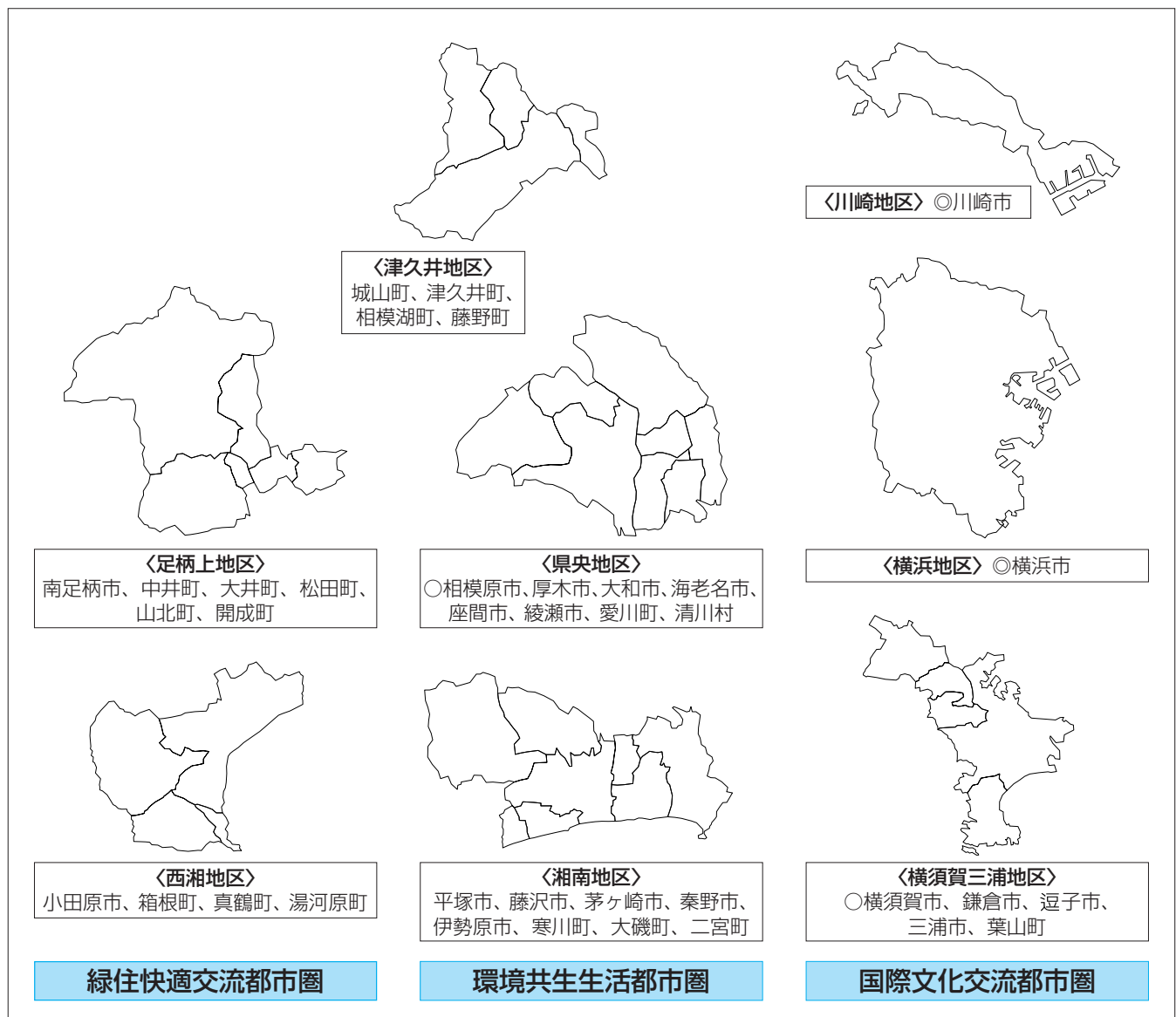
※それぞれの地域政策圏形成の基本的方向は、各ページに記載しています。

〈地域政策圏域図〉



2 地域区分設定の考え方

- 神奈川では、時代の流れとともに、社会経済環境が大きく変化してきている中で、様々な分野で行政需要が多様化、複雑化するとともに、人々の生活圏域の広がりもあいまって、地域における課題も広域化、重層化してきています。これらの課題に対応するには、ある程度まとまりのある地域が共有する課題に対して、市町村の取組みも含めた一体的な対応を行っていくことが効果的です。
- 「神奈川力構想・プロジェクト51」では、県内に「国際文化交流都市圏」「環境共生生活都市圏」「緑住快適交流都市圏」の3つの地域政策圏を設定しましたが、より地域に即した課題への対応として、まとまりのある地区を単位とした課題の抽出と、その解決に向けた地域プロジェクトを推進していくため、3つの地域政策圏に人々の通勤・通学圏や商圈などの生活の広がりを加味して、下図のとおり地域区分を設定しました。
- 地域区分により、完全に完結した地区となるわけではありませので、むしろ各地区を完結して捉えるのではなく、地区が連携しながらそれぞれの地区の個性を生かしていくことが大切です。そこで、「神奈川力構想・地域計画」では地区を越えた広域課題への対応も考慮していきます。



◎…政令指定都市 ○…中核市



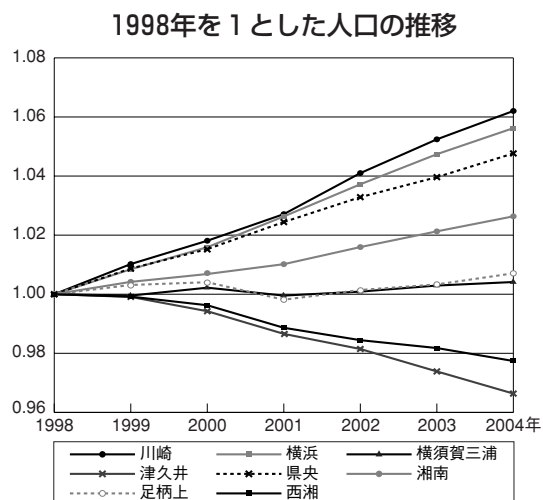
3 各地区の現状

- 「神奈川力構想・プロジェクト51」の「神奈川のめざすがた」では全県的な「時代の変化と今後の見通し」を明らかにしましたが、県内の各地区に目を移してみると、それぞれの地区の特徴が浮かび上がってきます。
- 第2章では、各地区で「地域の課題」を設定し、それを表す「数値データ（指標）」をとりあげていますが、その前提としてここでは、各地区を横断的に地域の現状を概観します。

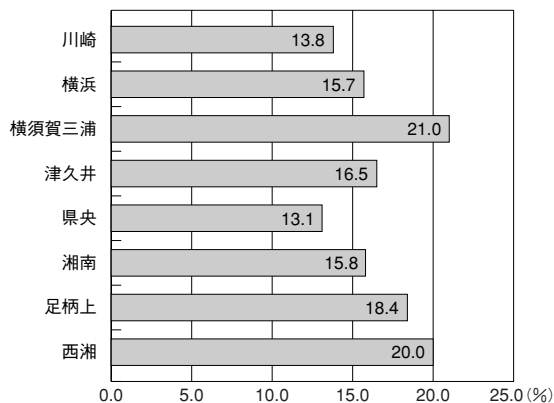
(1) 人口動態（少子・高齢化）

人口の推移は、川崎、横浜、県央及び湘南の各地区では緩やかながら増加が続いていますが、横須賀三浦、足柄上、西湘、津久井の各地区では横ばいないしは緩やかながら減少が始まっています。

また、全県では、2004（平成16）年1月1日現在での65歳以上の人の割合は15.7%であり、高齢社会*1となっていますが、地区別に見ると、横須賀三浦及び西湘地区ではすでに20%を超えている一方で、川崎、県央の両地区では、14%を超えていません。



65歳以上人口の割合（2004年1月1日現在）



（単位：人）

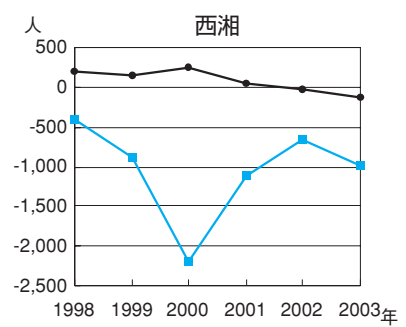
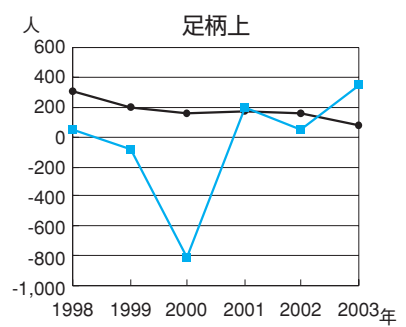
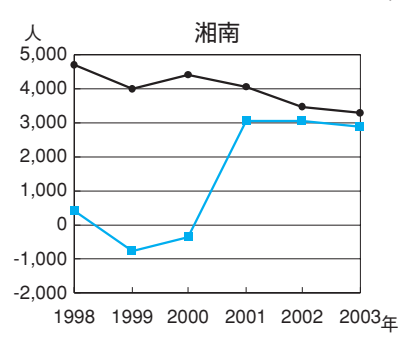
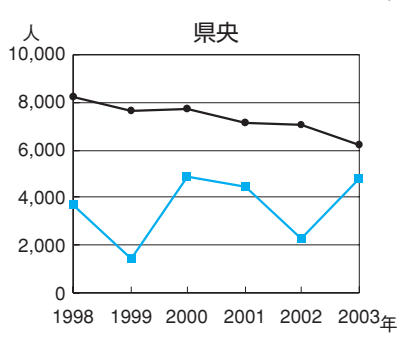
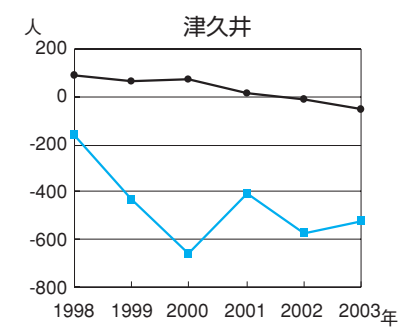
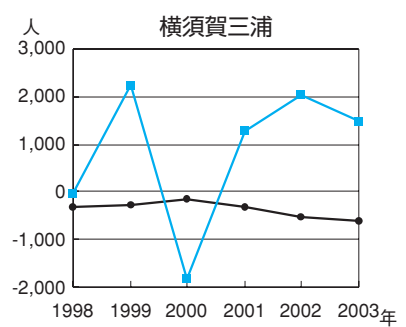
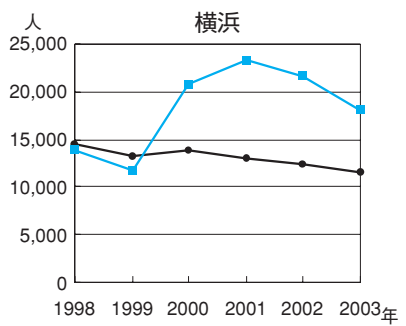
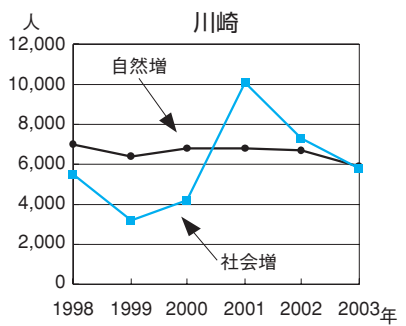
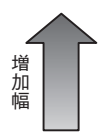
	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	全県に占める割合
川崎	1,219,475	1,231,927	1,241,552	1,252,540	1,269,469	1,283,411	1,295,121	14.9%
横浜	3,344,654	3,372,916	3,397,895	3,432,703	3,469,108	3,503,182	3,532,691	40.6%
横須賀三浦	737,089	736,750	738,715	736,750	737,741	739,258	740,132	8.5%
津久井	76,534	76,464	76,094	75,507	75,115	74,534	73,960	0.9%
県央	1,375,276	1,387,227	1,396,261	1,408,882	1,420,461	1,429,777	1,440,818	16.6%
湘南	1,221,025	1,226,126	1,229,374	1,233,445	1,240,509	1,247,009	1,253,208	14.4%
足柄上	111,082	111,430	111,534	110,875	111,242	111,450	111,867	1.3%
西湘	255,702	255,496	254,749	252,796	251,727	251,044	249,923	2.9%
全県	8,340,837	8,398,336	8,446,174	8,503,498	8,575,372	8,639,665	8,697,720	100.0%

各年1月1日現在の人口

「神奈川県人口統計調査」「神奈川県年齢別人口統計調査」より作成

* 1 高齢社会：一般に、高齢化率（65歳以上の人の割合）が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」と呼んでいます。（「高齢社会白書」内閣府編（2003年版））

各地区人口の自然増、社会増の推移



「神奈川県人口統計調査」より作成

自然増については、川崎、横浜、県央、湘南及び足柄上地区ではプラスですが、横須賀三浦、津久井及び西湘地区では、マイナスとなっています。また、自然増がある地域でもその増加幅は低下傾向にあります。

社会増については、川崎、横浜、横須賀三浦、県央、湘南及び足柄上地区では最近3年間、プラスが続いていますが津久井及び西湘地区ではマイナスが続いています。また、社会増が続いている地区でも、川崎及び横浜地区では2年間連続で増加幅が減少、県央及び足柄上地区では再び上昇などの動きが見られますが、傾向は一定していません。

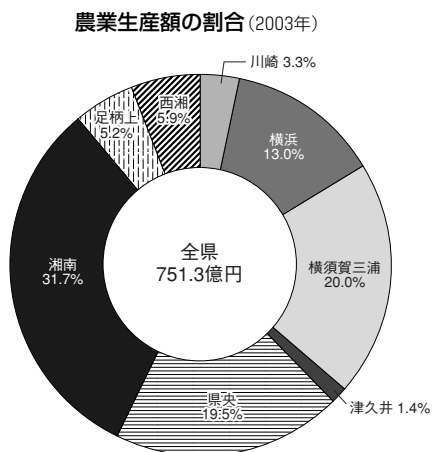
人口の推移は地域の差があると言え、それぞれの特徴に応じた対応が求められています。

(2) 産業・経済

県内の各地域ではそれぞれの地域資源を生かした産業が活発に行われていますが、我が国の経済の低迷が続く中で、地域経済にもその影響が現れており、生産年齢人口の減少もあいまって、地域経済の基盤が弱まってきています。

それぞれの地域の特徴を生かしながら、地域経済の活性化に取り組んでいく必要があります。

農業産出額を見ると、県内では、横須賀三浦、県央及び湘南の3地区で県内の約4分の3を占めています。



(単位：億円)

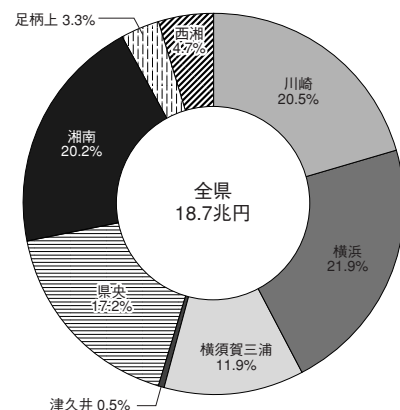
	1999	2001	2003
川崎	34.0	26.8	25.1
横浜	138.3	105.3	97.7
横須賀三浦	132.4	220.6	150.3
津久井	13.1	11.5	10.5
県央	154.7	147.1	146.5
湘南	268.7	248.8	238.2
足柄上	43.9	38.8	39.0
西湘	47.9	44.4	44.0

2003年は概算
「神奈川県農林水産統計年報」より作成

製造品出荷額等では、川崎、横浜、県央及び湘南の4地区が約20%でほぼ同じ割合となっています。

その推移を見ると、長期的には低下傾向ですが、回復の兆しも見られます。

製造品出荷額等(従業者4人以上の事業所)の割合 (2003年)



(単位：億円)

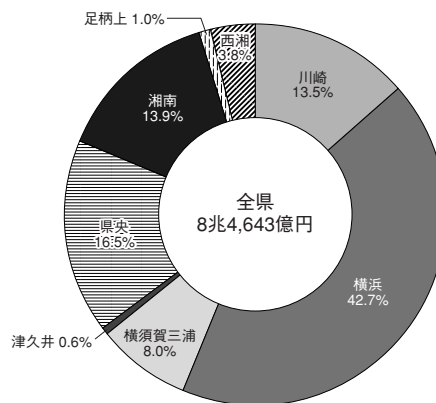
	1999	2001	2003
川崎	43,463	38,268	38,354
横浜	49,616	44,988	40,972
横須賀三浦	20,889	20,746	22,249
津久井	1,018	1,369	851
県央	41,604	38,356	32,150
湘南	42,396	40,608	37,909
足柄上	5,750	5,767	6,171
西湘	8,441	9,000	8,799

2003年は速報値
「神奈川県工業統計調査結果報告」より作成

商店街など地域に密着している小売業の年間商品販売額の割合は、各地区の人口比に近い割合です。

その動向を見ると、横須賀三浦、津久井、県央、湘南及び西湘地区で販売額の低下が続いています。

小売業の年間商品販売額の割合 (2002年)



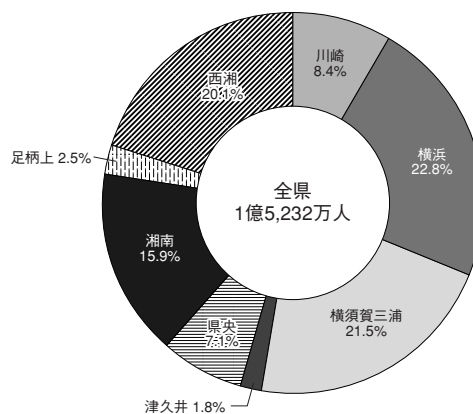
(単位：億円)

	1997	1999	2002
川崎	11,018	11,754	11,402
横浜	37,488	39,144	36,181
横須賀三浦	7,535	7,242	6,761
津久井	518	498	484
県央	14,907	14,824	13,996
湘南	13,025	12,919	11,791
足柄上	934	951	836
西湘	3,359	3,256	3,192

「神奈川県商業統計調査結果報告」より作成

観光産業はこれからの成長が見込まれ、地域資源の活用を図り定住人口だけでなく交流人口を増やすことは地域の活性化につながることを期待されています。入込観光客数は横浜、横須賀三浦、湘南及び西湘地区のウエイトが高くなっています。

入込観光客数の割合 (2003年)



(単位：千人)

	2001	2002	2003
川崎	12,811	11,766	12,764
横浜	33,784	34,536	34,665
横須賀三浦	32,407	32,676	32,770
津久井	2,691	2,651	2,688
県央	8,576	11,503	10,757
湘南	22,919	22,564	24,273
足柄上	3,415	3,497	3,834
西湘	30,146	29,755	30,576

「神奈川県入込観光客調査報告書」(神奈川県観光振興対策協議会)より作成

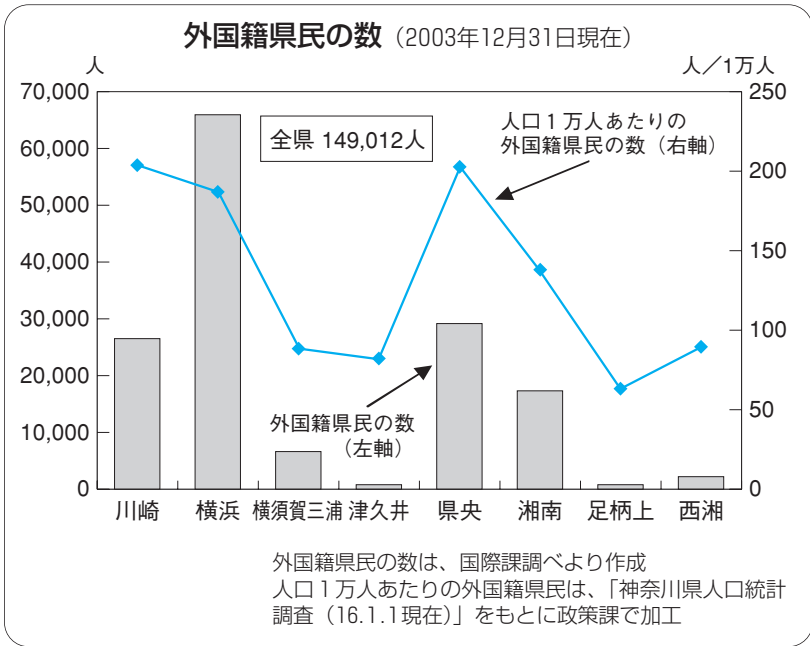
注) 大和市は2002(平成14)年から調査実施
中井町、大井町、開成町は2003(平成15)年から調査実施
綾瀬市は調査を実施していない

(3) 県民生活

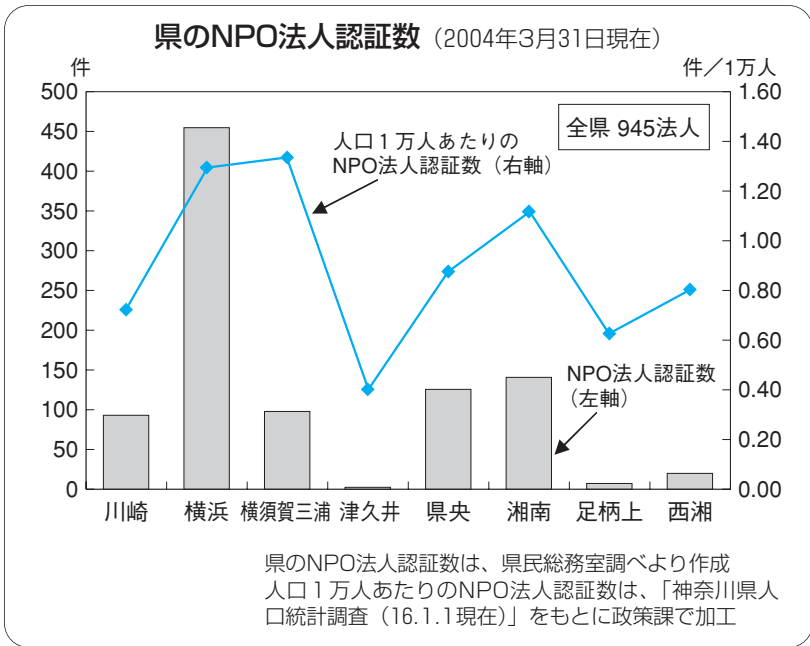
ライフスタイルの多様化やボーダレス化の流れの中で、外国籍県民の数の増加や、NPO*1をはじめとする県民の自主的な活動が活発になるなど、県民生活・県民意識も時代とともに変化してきています。

また、都市化の進展などにより、地域のコミュニティ機能が低下しており、安全で安心してくらす社会づくりが求められています。これらの変化の中にも地域の特徴が見られます。

国境を越えた人、ものの移動がますます活発化してくる中で、外国籍県民が今後も増加する見込みですが、人口比では川崎、横浜及び県央地区が多くなっています。



県認証の特定非営利活動法人 (NPO法人) は、横浜地区に主たる事務所を置くものが多くなっています。また、人口1万人あたりでは、横浜及び横須賀三浦地区で多くなっています。



* 1 NPO…Non-Profit Organization (民間非営利団体) の略。本計画では「ボランティア活動を行う特定非営利活動法人 (いわゆるNPO法人) 及び法人格を持たない団体」をいいます。

高等教育機関である大学などの数は、横浜、県央、湘南地区の順となっています。

産学公連携による産業振興が活発化してくるなど、地域社会の中で、大学などに存在感が出てきています。

大学院・大学・短大の数 (2003年4月現在)

(単位：校)

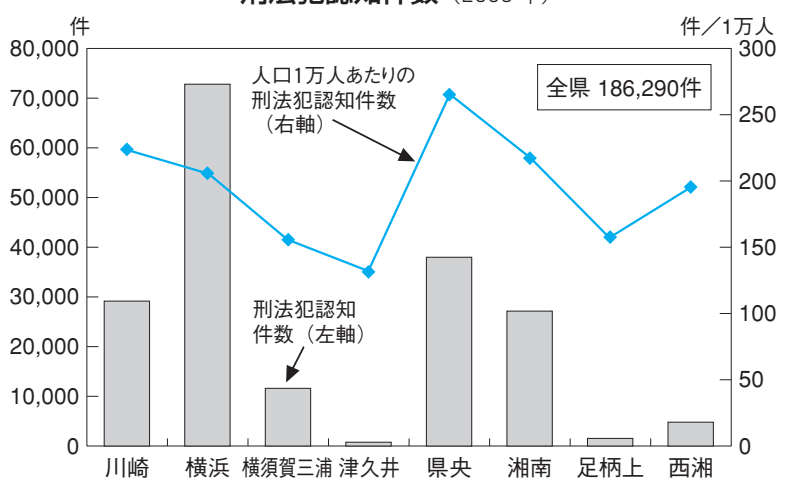
川崎	10
横浜	21
横須賀三浦	6
津久井	1
県央	16
湘南	14
足柄上	0
西湘	2

政策課調べ

注) 複数市町村に学部がある場合は、それぞれ集計

都市化の進展などにより、コミュニティ機能が弱まるとともに、人々のモラルの低下が進行する中で、身近な犯罪が多発していますが、人口1万人あたりの刑法犯認知件数で見ると、県央、川崎、湘南地区の順となっています。

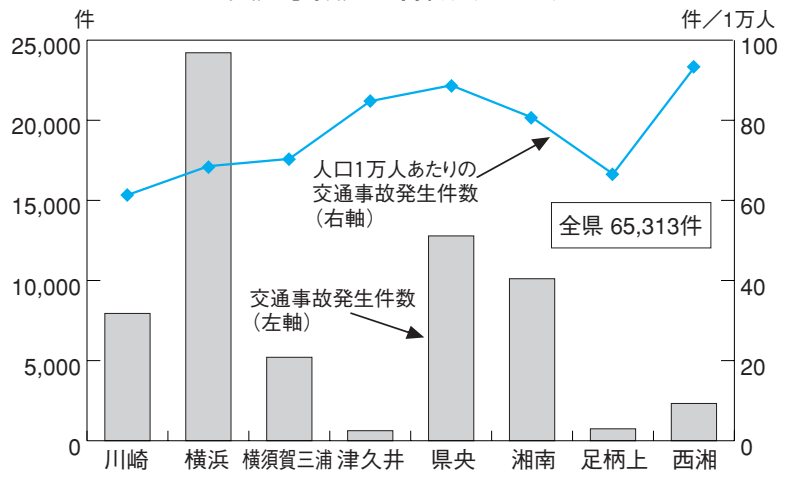
刑法犯認知件数 (2003年)



刑法犯認知件数は、警察本部調べより作成
人口1万人あたりの刑法犯認知件数は、「神奈川県人口統計調査 (16.1.1現在)」をもとに政策課で加工

人口1万人あたりの交通事故の発生件数では津久井、県央、湘南及び西湘の各地区で比較的多くなっています。

交通事故発生件数 (2003年)



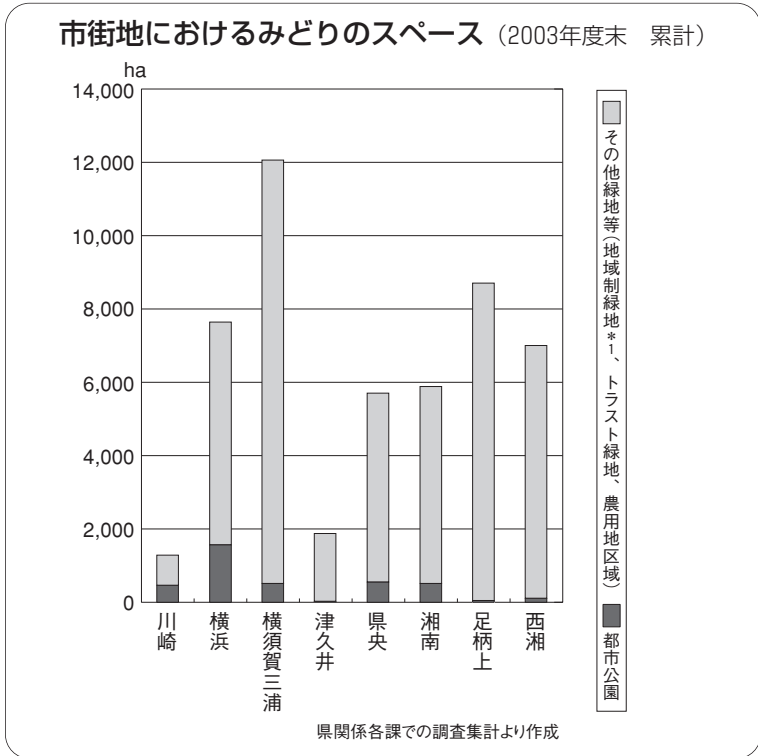
交通事故発生件数は、警察本部調べより作成
人口1万人あたりの交通事故発生件数は、「神奈川県人口統計調査 (16.1.1現在)」をもとに政策課で加工

(4) 自然・環境

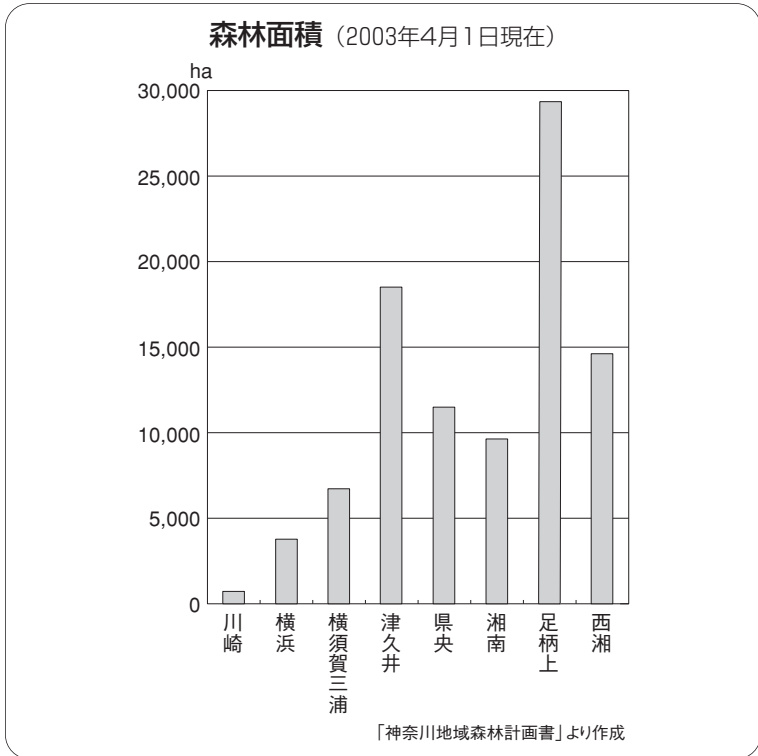
多様で豊かな自然環境に恵まれている神奈川ですが、近年の著しい都市化の進展などにより緑地の減少が進んでいます。良好な自然環境を将来の世代に引き継ぐため、各地域の特徴に応じた取組みを行っていく必要があります。

また、近年、さまざまな環境問題が生じているなかで、とりわけ廃棄物の問題は、地域の課題として現れており、発生抑制・資源化・適正処理とあわせて、不法投棄の防止対策を推進する必要があります。

都市のみどりを保全していくため、緑地の保全や都市公園の整備など、各地域で取組みが進められています。



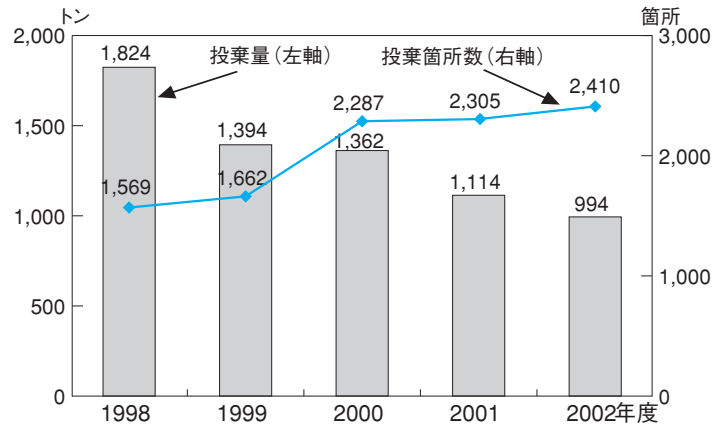
森林は清浄な空気や貴重な水などを生む母体としての役割を担ってきました。また、地域の文化にあった森林の在り方なども求められています。神奈川の森林は、足柄上、津久井及び西湘地区などに多く広がっています。



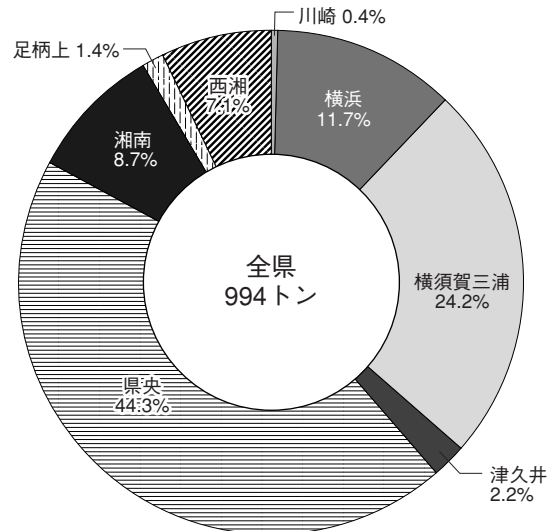
* 1 地域制緑地…首都圏近郊緑地保全法などの法律や条例などにより保全されている緑地。

不法投棄箇所数は増加傾向にあるものの、不法投棄量は減少傾向にあります。こうした中で、2002（平成14）年度の不法投棄量の地区別割合を見ると、県央地区で44.3%、横須賀三浦地区で24.2%、横浜地区で11.7%などとなっています。

県全体の不法投棄の推移



不法投棄量の割合 (2002年度)



(単位：トン)

	2000	2001	2002
川崎	6	6	4
横浜	91	89	116
横須賀三浦	348	325	241
津久井	79	30	22
県央	609	547	440
湘南	77	106	86
足柄上	76	7	14
西湘	77	7	71

廃棄物対策課調べ（毎年度末の市町村との合同パトロールなどで確認した不法投棄の量・箇所数）より作成

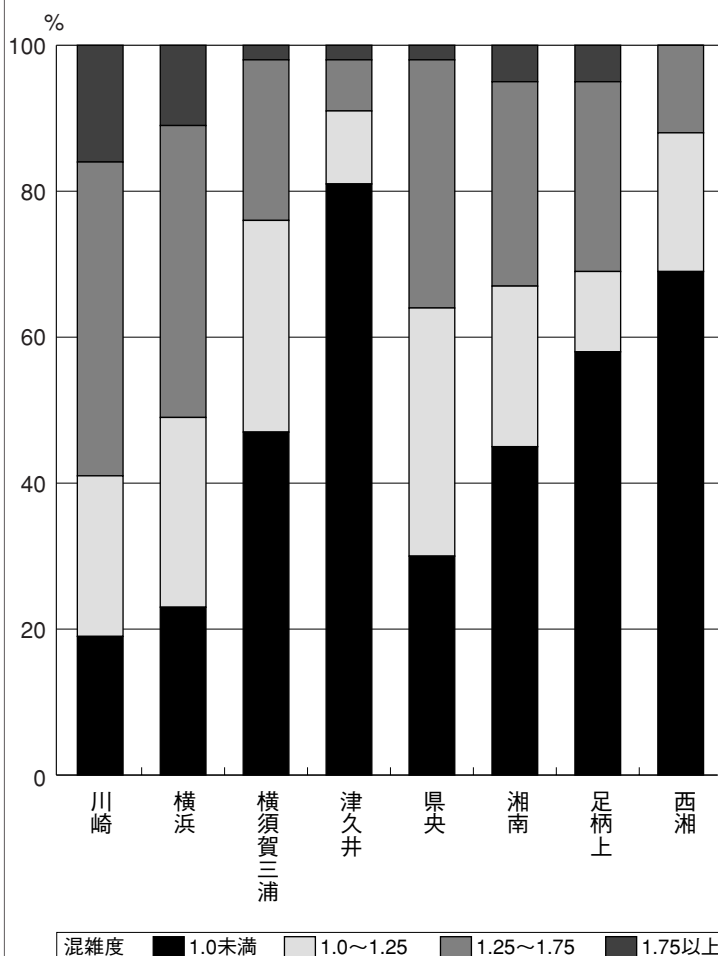
※各地区ごとにトン未満を四捨五入しているため、各地区投棄量の合計と県全体の投棄量は一致しない。

(5) 交通基盤

混雑度*1が1.0未満の箇所の割合は川崎、横浜、県央地区が低く、円滑に走行できる箇所が少ないことがわかります。

ただし、特定の箇所の混雑度が高いことが、地区の課題となっているケースもありますので、それぞれの地域の特徴に応じた対策が必要です。

混雑度の箇所の割合 (1999年度)



「道路交通センサス」より作成

注) 高速自動車国道、都市高速道路を除く

混雑度	推定される交通状況
1.0未満	昼間12時間を通して、道路が混雑することなく、円滑に走行できる状況。
1.0~1.25	昼間12時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が1~2時間(ピーク時間)ある状況。
1.25~1.75	ピーク時のみの混雑から日中に連続的混雑が生じる過渡的な状況。
1.75以上	日中に慢性的に混雑している状況。

* 1 混雑度…道路の混雑の程度を表す指標で、道路の持つ交通容量(交通を通すことができる能力)に対する実際の交通量の比で示されます。数値が大きくなるほど、混雑程度の悪化を示します。